

瀬田川プランクトン調査結果速報

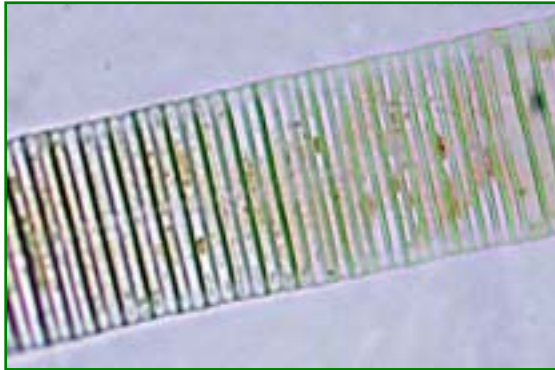
～第10報～

NEW 2004年1月からピコ植物プランクトン情報を追加しました。

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成16年6月7日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



Fragilaria capucina

（オビケイソウ）

珪藻綱

多数の細胞が殻面で密に接続し、帯状の群体を形成する。

動物プランクトン第1優占種



Bosmina longirostris

（ゾウミジンコ）

甲殻類

体は丸みを帯び、吻端の第1触角が長い
ためゾウミジンコと呼ばれている。

コメント

今回の調査では、植物プランクトンが非常に少なく、動物プランクトンは、ゾウミジンコが11,000個体/lと多く計数されている。本種は、去年は少なかったが、一昨年（平成14年6月17日）にも15,000個体/lと非常に多く計数された。このゾウミジンコの増加に伴い植物プランクトンは、減少したと考えられる。今後の増減が注目される。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

（1）動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	<i>Bosmina longirostris</i>	11000

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	Nauplius	30

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

(2) 植物プランクトン

平成16年6月7日

第10報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas tonsurata</i>	10		
(珪) <i>Stephanodiscus carconensis</i> var. <i>pusilla</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	70		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>leneata</i>	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	2		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	20	14.1	4.2
(珪) 珪藻綱	100	70.4	52.4
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	20	14.1	15.1
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	2	1.4	28.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細胞 数	142	総体積	2.26E+05
種 類 数	7	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし*印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	6月7日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	105,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 μm (1 μm は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。